

民国笔记小说大观
(第三辑)

凌霄一士随笔

(二)

● 徐凌霄 徐一士 著

山西古籍出版社



K249.066

X757:1

:2

民国笔记小说大观

徐凌霄 徐一士 著

凌霄一士随笔

山西古籍出版社

《民国笔记小说大观》

第三辑

1. 徐凌霄 徐一士
《凌霄一士随笔》
2. 易宗夔
《新世说》
3. 刘成禺
《洪宪纪事诗本事簿注》
4. 徐 珂
《康居笔记汇函》
5. 何刚德
《春明梦录·客座偶谈》
6. 罗惇融
《罗瘿公笔记选》
7. 葛虚存
《清代名人轶事》
8. 苏曼殊等
《民权素笔记荟萃》
9. 孙静庵
《栖霞阁野乘》
李岳瑞
《悔逸斋笔乘》
10. 瞿兑之
《人物风俗制度丛谈》

《民国笔记小说大观》

第四辑

1. 许指严

《南巡秘记》

2. 许指严

《新华秘记》

3. 袁寒云

《寒云日记·辛丙秘苑》

4. 包天笑

《钏影楼回忆录》

5. 黄 濬

《花随人圣盦摭忆》

6. 姜泣群

《民国野史》

7. 扞虱谈虎客

《近世中国秘史》

8. 柴小梵

《梵天庐丛录》

9. 李伯元

《南亭笔记》

10. 江 庸

《趋庭笔记》

王伯恭

《蜷庐随笔》

- 一六 曾国藩于碑志亦一大手笔…………… (391)
- 一七 林纾评论古人文字颇有可取…………… (392)
- 一八 梁鼎芬樊增祥等挽张之洞…………… (393)
- 一九 李汝谦挽张之洞诗…………… (394)
- 二〇 张之洞与甲申之役…………… (395)
- 二一 严复 辜鸿铭 端方…………… (398)
- 二二 陈宝琛与张之洞交谊甚笃…………… (399)
- 二三 马贞榆高凌霄祭张之洞…………… (400)
- 二四 张之洞与西后关系甚深…………… (400)
- 二五 刘坤一有守非张之洞所及…………… (402)
- 二六 张之洞至老始获大拜…………… (403)
- 二七 张之洞好为壮语…………… (404)
- 二八 张之洞筹款之术…………… (405)
- 二九 张之洞重困冯启钧…………… (406)
- 三〇 张之洞保全袁世凯…………… (406)
- 三一 袁世凯声势显赫于西后时…………… (407)
- 三二 张之洞与袁世凯共助停科举…………… (408)
- 三三 张之洞起居无节…………… (409)
- 三四 张之洞玩弄袁世凯…………… (411)
- 三五 张之洞负光绪帝…………… (412)
- 三六 京城之浙江三老…………… (413)
- 三七 谈孙宝琦…………… (413)
- (一) 生平简介…………… (413)
- (二) 与汪大燮为外交界前辈…………… (414)

(三) 超擢山东巡抚	(414)
(四) 办理濮州一案	(415)
(五) 用人惟才	(418)
(六) 莱海民变竟未获咎	(418)
(七) “奏请独立”	(420)
(八) 与奕劻联姻非为图荣	(421)
(九) 怒辞财长职务	(421)
(一〇) “七十老翁”	(422)
(一一) 财有所取, 有所不取	(422)
(一二) 致力维持治安	(422)
(一三) 习于奢侈而患贫	(423)
(一四) 述庭训以道素志	(423)
三八 人生富贵乃由命定之说	(425)
三九 宋清三朝弈家故事	(426)
四〇 再述长人遗事	(428)
四一 林纾三谒崇陵	(429)
四二 林纾陈衍同为古交而相轻	(431)
四三 林纾素性负气喜争	(432)
四四 林纾见轻于其乡之文人	(433)
四五 西后深感李鸿章	(435)
四六 李国杰袭封崭露头角	(436)
四七 黎元洪电报滥用“涂山”之典	(436)
四八 国务员出席国会之苦	(438)
四九 诗人樊增祥	(439)

- 五〇···郑孝胥和樊诗·····(440)
- 五一···为师乡会试之捷晚于徒弟·····(441)
- 五二···樊增祥自称尚书案·····(441)
- 五三···名将韩光第碑铭·····(443)
- 五四···樊增祥与易顺鼎齐名·····(444)
- 五五···易顺鼎解寿诗·····(446)
- 五六···樊易诗之高下·····(447)
- 五七···樊增祥批牍·····(447)
- 五八···林诒书挽樊增祥联·····(448)
- 五九···兵部之流变·····(449)
- 六〇···张之洞未尝劾李莲英·····(451)
- 六一···陆宝忠请设文部·····(453)
- 六二···陈衍郑孝胥讽嘲林纾·····(454)
- 六三···林纾作诗铺张而好博·····(456)
- 六四···陈衍力主铸铜元·····(457)
- 六五···陈衍为张之洞祝寿·····(458)
- 六六···禁宰牛·····(459)
- 六七···启秀徐承煜被斩内幕·····(459)
- 六八···裕禄自杀·····(462)
- 六九···裕德进谏·····(463)
- 七〇···裕德有洁癖·····(464)
- 七一···五台僧攻西什库教堂散记·····(465)
- 七二···裕禄于义和团态度之变化·····(467)
- 七三···义和团尊奉邪篇藻·····(468)

(一) 七四...	同文书局始末	(469)
七五.....	日本宽永钱之流行	(470)
(一) 七六.....	谈王小航奏摺	(471)
(二) 七六.....	(一) 奏请维新	(471)
(二) 七六.....	(二) 评说帝后	(474)
(三) 七六.....	(三) 蒙光绪帝峻擢	(474)
(四) 七六.....	(四) 参倒六堂案	(475)
(五) 七六.....	(五) 主张文字革新	(476)
七七...	雍正强词夺理	(477)
七八...	雍正局度浅狭	(478)
七九...	雍正以书法自矜	(480)
八〇.....	邹汝鲁谄而得祸	(481)
八一.....	《圣武记》之影撰	(483)
八二...	枪手	(484)
八三...	程学启之死因	(485)
八四	“斫”、“坎”、“砍”	(487)
八五.....	廉兆纶功不可没	(487)
八六.....	酒家之宣传词	(489)
八七...	葱包子	(490)
八八	蘇东坡故事	(491)
八九.....	熊掌难熟	(493)
九〇.....	石达开供词	(494)
九一.....	石达开大渡河之败	(495)
九二	顺治帝善绘事	(496)

- 九三……西狩轶事……………(497)
- 九四……西后变法诏……………(500)
- 九五……溥儒之废立……………(501)
- 九六……溥儒之小慧……………(505)
- 九七……奕劻李鸿章请废溥儒……………(506)
- 九八……荣禄阻止废光绪帝……………(507)
- 九九……荣禄重刘坤一……………(510)
- 一〇〇……王闿运作《荣文忠故宅诗》……………(511)
- 一〇一……戊戌以后之李莲英……………(511)
- 一〇二……张人俊鹿传霖气谊相投……………(513)
- 一〇三……鹿传霖督川……………(514)
- 一〇四……清末督府立宪之争……………(515)
- 一〇五……庆内阁……………(517)
- 一〇六……张之洞之死……………(517)
- 一〇七……载沣与袁世凯……………(519)
- 一〇八……袁世凯入都组阁……………(520)
- 一〇九……袁世凯被逐……………(520)
- 一一〇……光绪帝不能自抑……………(521)
- 一一一……善耆密谋以消防队护卫光绪……………(523)
- 一一二……同考官之苦乐……………(525)
- 一一三……福州大水……………(529)
- 一一四……古代士人之“官年”与……………

“实年”	(530)
一一五 增年捐官	(532)
一一六 彭蕴章长于文事	(533)
一一七 彭蕴章升迁之速	(534)
一一八 光绪殂逝之谜(一)	(536)
一一九 光绪殂逝之谜(二)	(539)
一二〇 张之洞定光绪庙号	(541)
一二一 袁世凯订“二十一条”	(542)
一二二 叠语笑料	(544)
一二三 河神	(546)
一二四 清初缠足而未果	(548)
一二五 八股文之废	(548)
一二六 清代缠足之地域分布	(550)
一二七 汉军旗人也有缠足者	(551)
一二八 嘉庆严禁汉军裹足与衣袖宽大	(552)
一二九 清末顾黄王从祀孔庙之议	(554)
一三〇 陈衍妻	(556)
一三一 梁鼎芬妒才	(557)
一三二 张之洞轶事	(558)
一三三 明代乡宦最横	(560)
一三四 王燮之死秘闻	(561)
一三五 光绪特擢王照之用意	(564)
一三六 王闿运记梦	(565)

- (一三三七) ……中西文明优劣说…………… (567)
- (一三三八) ……玉闾运痴人说梦…………… (570)
- (一三三九) ……作文之摹仿与变化…………… (571)
- (一四〇) ……三重身分…………… (573)
- (一四一) ……吴士迈失岳州探秘…………… (575)
- (一四二) ……袁世凯把持朝政之始…………… (576)
- (一四三) ……杨翠喜案…………… (577)
- (一四四) ……瞿鸿禨之被劾罢…………… (579)
- (一四五) ……载沣之进用…………… (580)
- (一四六) ……“鸡寒上树”辩…………… (581)
- (一四七) ……汪康年唐文治交谊深厚…………… (582)
- (一四八) ……陆宝忠得罪袁世凯…………… (583)
- (一四九) ……贻穀侵牟案…………… (586)
- (一五〇) ……杨度与梁启超…………… (588)
- (一五一) ……杨度与袁世凯…………… (589)
- (一五二) ……杨度与玉闾运…………… (592)
- (一五三) ……“眈代逸才”的结局…………… (593)
- (一五四) ……吴式钊出卖沈荃…………… (593)
- (一五五) ……王照之获救…………… (594)
- (一五六) ……苏元春之出狱…………… (596)
- (一五七) ……杨度挽联…………… (597)
- (一五八) ……杨度《逍遥游辞》…………… (598)
- (一五九) ……“无夫奸不为罪”之辩论…………… (599)
- (一六〇) ……宪友会与宪政实进会…………… (601)

一六一	“阎王”督赈	(602)
一六二	袁世凯练新军	(604)
一六三	北洋军阀之起始	(605)
一六四	铁良袁世凯之争	(606)
一六五	载沣载洵载涛掌兵	(607)
一六六	良弼佐载涛排挤铁良	(608)
一六七	良弼与吴禄贞	(609)
一六八	北洋派盛衰略说	(609)
一六九	善耆轶事	(610)
	(一) 延纳名士	(610)
	(二) 宽释汪兆铭等	(611)
	(三) 关心宪政	(611)
	(四) 遗摺于逊帝	(612)
一七〇	爽良与清史馆	(613)
一七一	善耆喜演戏	(614)
一七二	“如当舍”	(615)
一七三	善耆书画	(615)
一七四	淮军将领刘铭传	(615)
一七五	李鸿章“纸老虎”之说	(616)
一七六	日本驱逐清廷议和使臣	(617)
一七七	李鸿章赴日议和	(618)
一七八	李鸿章晚年政治生涯	(620)
一七九	康有为《新学伪经考》案	(621)
一八〇	李滋然《新学伪经考》	

- () 辩词..... (623)
- () 一八一··· 李滋然轶事..... (625)
- () 一八二··· 张之洞入相谢恩摺..... (626)
- () 一八三··· 军机四章京..... (627)
- () 一八四··· “六君子”之死..... (628)
- () 一八五··· 王锡蕃..... (629)
- () 一八六··· 《行脚山东记》..... (630)
- () 一八七··· “朋友,朋友,说真的吧”
..... (632)
- () 一八八··· 争财神..... (633)
- () 一八九··· 交通系..... (634)
- () 一九〇··· 载泽谋组阁..... (635)
- () 一九一··· 载泽府中潦倒状..... (635)
- () 一九二··· 满洲大僚委事家仆之积习..... (636)
- () 一九三··· 蒙古实业公司..... (637)
- () 一九四··· 第一报人朱淇..... (638)
- () 一九五··· 《北京报》之创立..... (638)
- () 一九六··· 京都报业之兴起..... (639)
- () 一九七··· 报业联合会..... (641)
- () 一九八··· 庚戌辛亥间报业迭兴..... (641)
- () 一九九··· 朱淇办报稳健..... (642)
- () 二〇〇··· 朱淇与袁世凯..... (642)
- () 二〇一··· 朱淇晚年..... (643)
- () 二〇二··· 清国旗..... (643)

二〇三	裕长轶事·····	(644)
二〇四	章炳麟去鄂真因·····	(645)
二〇五	载沣监国·····	(647)
二〇六	李鸿章与甲午海战·····	(648)
二〇七	甲午战败后之李鸿章·····	(652)
二〇八	李鸿章游欧轶闻·····	(653)
二〇九	薛福成史才过人·····	(654)
二一〇	叶名琛之隐衷·····	(656)
二一一	民气可恃而不可专恃·····	(657)
二一二	曾国藩议和·····	(658)

第三卷 (原第八卷) 1931年 (民国20年)

一 王闾运与肃顺

肃顺受咸丰帝顾命赞政，以抗垂帘诛死。虽当时清议以成败论人，多不右之，而自是一代英物。王闾运尝客顺所，后记此狱缘起，颇为辨雪；且于同治十年（辛未）造其家存问。《湘绮楼日记》是年七月六日所记云：“至二龙坑劈柴胡同，见豫庭二儿，一曰徵善，字信甫，出继故郑王端华；二曰承善，年十八，甚英发，园亭荒芜，竹树犹茂，台倾池平，为之怅然。”八日所记云：“故郑王子徵善来，余本约豫庭子承善来，（原注：“字信甫，父云禹畴，其弟同善，字禹襄，独与母出居牙外。盖豫庭二妻不和也。”）而以无衣冠不能至。旗人仍

习气，讲排场，不能变也。谈久之，无策可振之。宗室禁严如此，亦定制之未善耶。”虽格于环境，爱莫能助，要为恋恋有故人之意。今岁又值辛未，去彼时六十年，顺后人更不知若何矣。

二 王闿运辛未入都之意

闿运彼岁入都，为会试也。忆曾有人谓此行专为慰视顺家，会试特托名耳，盖未必然。其时闿运名心尚未尽忘（湘绮楼笺启《致董研樵兵备》谓：“进仕之意，绝于乙亥矣。”乙亥光绪元年也），且三月三日抵京，试后于七月将行时（十五日出京），始往其家，足见北上非专为此。《东轩笔记》云：“湖南王壬秋先生得第后，赴部试，车行见京阙矣，忽洒涕回车。此事予幼年闻人所道，未知确否。后阅《湘绮楼钞集》，有萍始华（按：华当作生）会试赋一首，则先生固尝入礼闈也。或为予述先生语曰：‘我若会殿，必许（？）状头。’但光绪帝年太幼，引见时跪拜不甘耳。时先生已逾六十，诙谐之妙，不减少年。”谐语亦与“进仕之意绝于乙亥”语相通。赋作于咸丰庚申，闿运壬子乡举后，会试非仅一次也。集中《会试萍始生赋》自跋云：“咸丰十年，会试天下举人，天子命大学士周祖培为正总裁官，二场试五经义，至礼记独发此萍始生一句，案其义例，说数十言明白矣。而功令限三百字以外，乃作赋一篇，又